

熊本地震調査報告（地震断層）

2026.10.01

令和 8 年 7 月 28 日 16 時 27 分頃、熊本県熊本地方の深さ 16 km を震源とするマグニチュード 7.1 の地震が発生し、多くの被害を発生させた。この地震は、日奈久断層帯の一部が活動したことにより発生した。日奈久断層帯は、熊本平野の南東部から八代平野の南東縁、さらに八代海にかけて北北東－南南西に分布する。この日奈久断層帯に沿って、熊本県御船町高木付近から八代市平山新町付近にかけての 30 km 以上にわたって、地表地震断層が出現していることが報告されている。地表地震断層は、深部の震源断層における岩盤のずれが地表に達したものであり、地表の構造物や建物に対して、地震動だけでなく、地盤のずれに伴う深刻なダメージをあたえる。9 月 11 日～14 日に実施した現地調査では、特に八代平野の南東縁に出現した地表地震断層について確認を行った。写真 1～7 に地表地震断層による顕著な被害を示す（写真撮影位置は図を参照）。

調査日 ： 2026 年 9 月 11～14 日

調査場所： 熊本県宇城市豊野町、宇城市小川町、氷川町および八代市周辺

調査者 ： ○岡田真介・福留邦洋・山本英和（岩手大学地域防災研究センター）



写真 1. 八代ジャンクション付近に出現した地表地震断層。雁行しながら連続する地表地震断層が確認できる。写真中の赤矢印に明瞭な変位が出現している。地震断層は、写真左手の南九州自動車道・九州自動車道の橋脚下を通り、北北東方向（写真の左方向）へ連続する。地震断層による地盤の変位により、橋脚部分にもずれが生じており、通行止めとなっている。[岡田真介撮影]



写真2. 八代ジャンクション付近に出現した地表地震断層。地震断層は写真右手前から中央奥に向かって連続し、橋脚の下を通過している。[岡田真介撮影]



写真3. 圃場に出現した地表地震断層。道路を挟んで向かい側にあるコンビニエンスストアの防犯カメラには、地震時に地表地震断層がずれ動き、出現する映像が記録されている。[岡田真介撮影]



写真 4. 八代神社境内に出現した地表地震断層。地震断層は、写真の左手前から奥に向かって、南南西に連続する（写真は北から南に向かって撮影）。写真の奥の玉垣も地震断層により、右側（西側）が低下している。[岡田真介撮影]



写真 5. 龍峯小学校の校舎下を通る地表地震断層。画面中央部分の窓枠が大きく破壊されている。写真中央の手前から奥に向かって、地震断層が通っており、校舎の奥側のグラウンドに連続する。地震断層による地盤変位により、校舎に破壊が生じた。[岡田真介撮影]



写真 6. 氷川町野津付近の圃場を横切る地表地震断層。写真右手から左手にかけて、地表地震断層が横切ったことにより、圃場に変位が生じている。稲の色が変わっていることにより地震断層の位置が連続的に見えている。[山本英和准教授撮影]



写真 7. 宇城市小川町小川付近の地表地震断層による道路および住宅地の被害。地表地震断層は、写真手前から左奥の黒壁の住宅の方向へ地震断層が連続する。道路面やフェンスも大きく変形している様子が見られる。[山本英和准教授撮影]

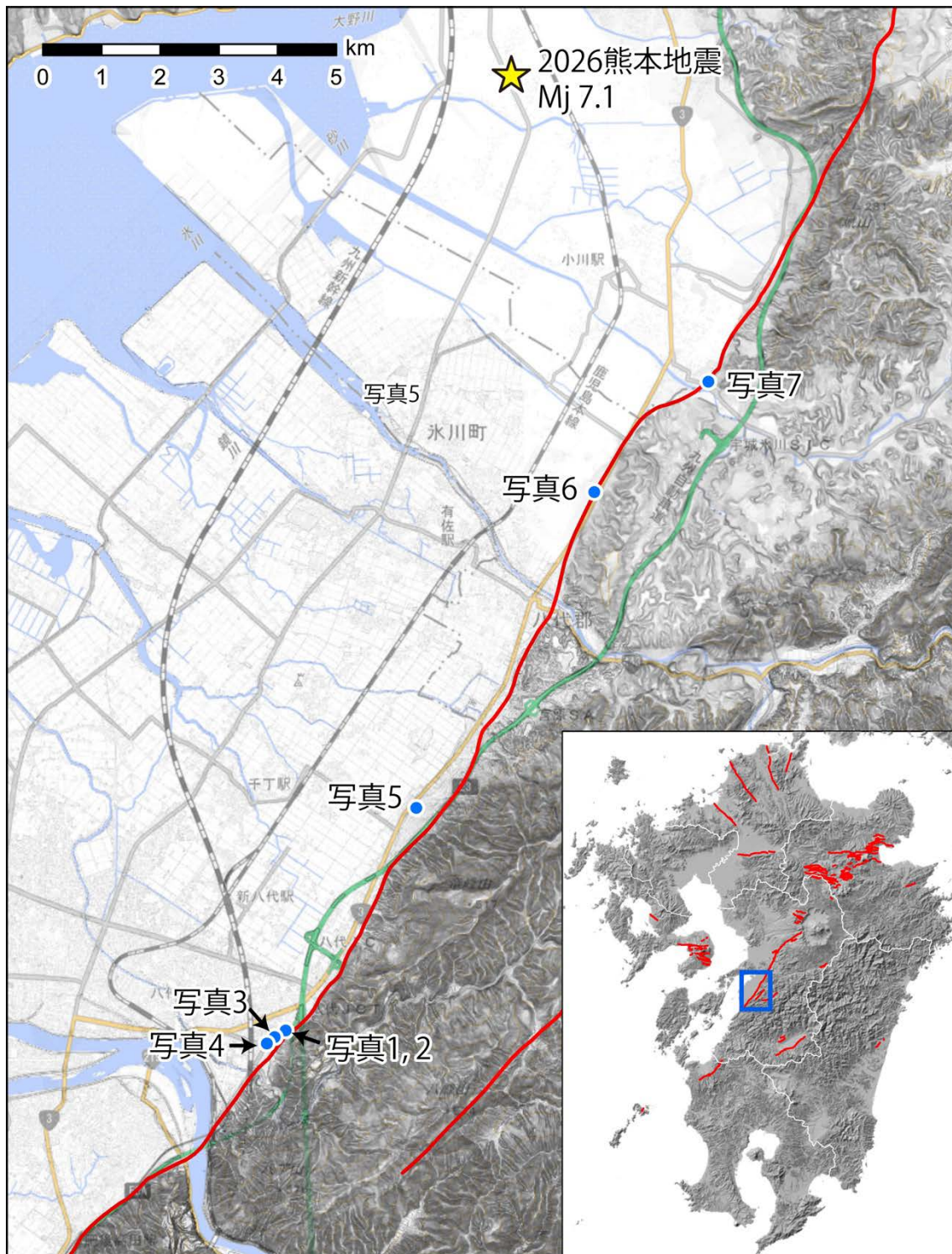


図. 調査における写真撮影位置。図中の赤線は、地形から判読した活断層位置であり（中田・今泉編, 2002），令和 8 年熊本地震に伴う地表地震断層の位置ではないことに注意。地表地震断層は，概ねこの活断層線（日奈久断層帯）に沿って出現している。背景の地図は国土地理院の地理院地図から作成した。[岡田真介作成]